

すっかんぽ

7月号



期末試験最終日、清掃も終わり、昼めしでも食うか、と思っていた矢先のことだった。音楽担当のT先生が、「今、おもしろいものがみられるよ。早くいかないと終わっちゃうよー」と、笑みをたたえて、手招きをしているではないが、さそく、現場(職員用玄関付近)にかけつけると、何やら人だかりがある。そして、その視線はすべて一点にそくがれていた。上の写真が、その状況をおさめたものである。はたして、この2匹は何をしているのだろうか。

① メスめぐる、オス同士のけんか ② ともぐい ③ オスとメスの交尾

写真の主は、よく道はたをチョロチョロと横切る、トカゲであるが、あのすばしこさは、まるで感じわす。我々の見守る10分以上ものあいだ、微動だにしない。どうやら、①というふんい気ではない。また②だとしたら、一生かかっても飲み込めそうにない。とんだ大ボケだ。すると、当然、この現象は③の交尾ということになる。つまり、この1対のトカゲは、白昼堂々

佐高の玄関という目立つ場所(しかも、コンクリートが一段高くなっている所)で、さらに公衆の面前で、10分以上も交尾しつづけていたことになる。私は、その勇氣ある、かつ大胆な行動に大きな拍子を送りたい。しかし、カメラのフラッシュをおび続け、彼らの表情(もちろん、そういうものはないが)には「まずいことになっちゃったなー。でも、このままやめるわけにもいかんし。こりゃ、まいった。」という複雑な心境があらわなのではないかと勝手に想像している。

そして、そういう状況といいことに、生物の先生3人は、それぞれ、じくりと腰を弯えて観察を行なった。まず、写真①でわかるが交尾という言葉どおり、しっぽを交差させ、しかも、オスはメスの体にかみつ、手で、ガッチリとおさえている。まさに柔道の「横四方固め」という感じである。M先生は、いろいろな角度から観察をおこなう。オスとメスの結合部位で、ペニスが、見えたという、喜んでいて。カラー印刷でないので、残念だが、オレンジ色のペニスが写真②で、チラリと写っている。トカゲやヘビなどのハ虫類のペニスは、交尾期以外は、体内におさまっているのだから、みることはできないらしい。そして、ペニスは二股に分かれていて、その片方をメスに挿入する。このペニスには、トゲ状の突起が生えている。挿入したペニスが外れないように、という自然の仕組みであろう。また、ときに「足のあるヘビを見た」と主張する人がいるのは、二股のペニスの露出した姿を見たからだといわれている。

ところで、この二匹は、オスが体を少し動かしたかと思っただけで、ひそかにほじけるようにして、離れ、すばやく草むす姿をかいた。あれあれ、と思っただけの間、でき事で、あ、けな、幕切れに我々は、しばし、ぼう然としてしまった。しかし、もし、交尾中に、犬やネコに見つかたなら、ひとたまりもないはずである。それににもかかわらず、交尾をしつづけたのは、なぜなのだろうか。これから学ぶ「生態と発生」の単元で、それに対する答えをみいだしてもらいたいと思う。

